

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価結果

達成度(評価)
 A: 十分達成できている
 B: おおむね達成できている
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

学校名	唐津市立加唐小中学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 児童数・職員数が減り、年度当初は学校全体の活気や行事の準備・運営など心配な部分もあったが、全職員が様々なアイデアを出し、一丸となって働いたことで「心の教育」「健康・体づくり」では、保護者・学校評議員から高い評価を得た。しかしながら、それぞれの授業時数や校務分掌等で各職員に大きな負担となった。来年度は中学校も復活することから、より一層働き方改革を促進し、創造的な教育活動ができるように努めていきたい。 全職員が複式での授業を経験し、校内研究でもより良い授業づくりについて議論を重ねたことで、授業内容が向上し、CRTテストや漢字検定などで学力の高まりを感じることができた。来年度は家庭学習の在り方について、学校全体で話し合っていく必要がある。
------------------	---

2 学校教育目標	夢の実現に向かって たくましく挑戦する 児童生徒の育成 — 郷土愛 自律 協働 —
----------	--

3 本年度の重点目標	①地域とともにある学校づくり(体験活動を通して郷土の魅力を発見・発信する活動) ②離島へき地教育の推進(基礎学力の向上と実践的コミュニケーション能力の育成) ③特別支援教育(特別支援学級の組織体制の整備)
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
●学力の向上	○基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成	○12月実施の県学習状況調査、1月実施のCRT標準学力検査において、全ての学年・教科で県平均を上回るようにする。	・学力向上対策評価シートの重点取組と成果指標を全職員と共有し、実践する。 ・校内研において、児童生徒の実態を把握する時間を設け、授業づくりに生かす。	B	・学力向上対策評価シートの各項目を共有するタイミングが遅かったため、実践に至るまでに時間がかかってしまった。 ・児童生徒一人ひとりの実態を共有する時間を設けることで、職員間の共通理解を図ることができた。	B	・成果指標は達成できなかったが、校内研において児童生徒の実態を共有する時間をとり、児童生徒一人ひとりに応じた教育活動を行うことができた。全校での共通実践について早めに共有することが反省点である。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「周囲に対して思いやりをもって接することができる」と回答する児童生徒を80%以上にする。	・思いやりや感謝の気持ちを育むために、児童生徒同士で感謝の言葉を送りあうなどの取り組みを行う。 ・道徳教育に関する掲示物を充実させ環境整備を行う。	B	・友達のよさを見つけ認め合うように、感謝の言葉を掲示する取組を行っている。他者のよさに目を向けるいい機会となっている。 ・道徳教育の授業の進め方など先生方に十分に示すことができていない。今後の課題である。	B	・道徳の授業を中心に児童活動やスピーチタイムで友達の良さを認め合う機会を設定している。児童生徒全員が思いやりのある他者への関りができている。 ・道徳に関する校内研修は計画的に実施できなかった。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事実対処等)について組織的に対応できていると回答した教員を80%以上とする	・生活アンケートや児童への個別面談を実施し、いじめ等の早期発見、早期対応を行う。 ・人権・同和教育に関する職員研修会を年2回実施し教職員の知識理解を高める。	B	・人権同和教育の職員への研修は、校内研修およびオンデマンドの研修を通して行うことが出来た。 ・人権標語、人権ポスターの取組及び講師招聘による平和集会の実施等を通して児童生徒の人権への意識向上に努めた。	B	・人権・同和教育に関する研修は長期休業中と研修会への参加で行うことができたが、資料の活用などの情報提供が不十分だった。 ・集会等の取り組みはほぼ年間計画の通り実施できた。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒を100%にする。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒を100%にする。	○「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒を100%にする。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒を100%にする。	・各行事で、児童が役割を担い、自主的に計画、実行し達成感を味わうことができるよう、教師がサポートし、また、その都度児童の成長を賞賛する。 ・スポーツ観戦や高校訪問、体験活動等の校外学習を通して、「夢」「目標」「仕事」について考える場を設定する。 ・キャリアパスポートの見直しを行う。	C	・児童生徒の自主的な活動を目指した教師のサポートが不十分である。各行事等の引継ぎや準備を十分にを行い、児童生徒の達成感や自己肯定感を高めていく必要がある。 ・様々な校外学習を通して、「夢」「目標」「仕事」について、考える場を設定することができた。 ・キャリアパスポートの見直しは未実施。	B
●健康・体づくり	●自らの夢や希望の実現に向けて挑戦する気持ちを高める教育活動の推進	○「将来の夢や目標を持ち、具体的な努力をしている」について肯定的な回答をした児童生徒を100%にする。	・授業や各行事で、児童生徒に役割を任せ、自己肯定感を味わわせる。 ・「島の魅力や良さ」に気付かせる取組により、先人たちの努力や功績を自身の進路実現に生かす機会を作る。	B	・担任レベルでの取組の最中で、自己肯定感を味わわせている段階である。引き続き、より具体的な行動に結び付けよう指導を続けていく。	B	・将来の夢や目標を持つ児童生徒は、アンケートの結果80%弱であったが、授業や各行事に対しては、90%以上が意欲的に参加し取り組んだ。 ・100%に近い児童生徒が島への愛着を持っており、島の良さを見つけるための島内の清掃活動や島に関する学習を進んでいった。
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」と回答する児童生徒を100%にする。	・毎日朝食を食べているかのチェックを行うとともに、授業や集会等での取組により、朝食を食べることやバランスよく食べることの大切さを理解し、意識して食べる態度を育てる。	B	・全員毎日朝食を食べているが、内容がバランスのとれていないもの、好きなものばかり食べているものが多い。授業や集会、掲示物などで、バランスよく食べることの大切さを伝えていく必要がある。	B	・月別の給食目標と関連を持たせ、朝食を食べることの大切さについては、児童生徒に理解させることができ、全員毎日朝食が取れている。しかし、バランスよく食事ができている者は少ないので、児童生徒自身が取り組みやすい方法で、バランスよく食べるには何を追加したらよいか考えさせる活動を取り入れていきたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の徹底 ・長期休業中の年休取得の推進 ・学校閉庁日の設定	B	・繁忙期を除いて時間外在校等時間の上限はほぼ超えていないが、一部職員の慢性的な超過勤務がある。 ・長期休業中は年休を積極的に取得し、心身のリフレッシュに繋がった。	B	・時間外在校時間は減少傾向にある。 ・冬季休業中も積極的に年休を取得し、リフレッシュに繋がった。 ・業務のデジタル化が進んだ。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の視点を取り入れた教育実践	○特別支援教育の視点を取り入れた実践を行うことができた教員を100%にする。	・個に応じた学習指導の方法を工夫、改善する。 ・各関係機関との情報共有、連携を密にする。	A	・特別支援学級児童に対し、個に応じた教具の作成や学習指導を工夫し、児童の成長が見られた。 ・エリアリーダー、特別支援学校から講師を招き、研修を深めた。	A	・特別支援学級児童に対し、個に応じた教具を作成したり、学習指導法を工夫したりして、発表資料を作成したり、成果物の生徒・教員間での共有・フィードバックをしたりした。また、荒天の際には、リモート会議を活用しリモート授業を実施した。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
○児童生徒のコミュニケーション能力の向上	○実践的コミュニケーション能力の育成	○児童生徒のコミュニケーション能力の向上について、肯定的な回答をした保護者、教員を80%以上とする。	・校内研修において、教職員間での授業報告・改善。 ・ICTの利点を生かした授業改善(即時フィードバック、共有、リモート会議)	B	・校内研修において、授業実践報告を行い、教職員間でアイデアを出し、授業改善に努めた。 ・ICTを活用して、授業内外でドリル学習をしたり、発表資料を作成したり、リモート会議をしたりした。	B	・校内研修において、授業実践報告を行い、教職員間でアイデアを出し、授業改善に努めた。 ・ICTを活用して、授業内外でドリル学習をしたり、発表資料を作成したり、成果物の生徒・教員間での共有・フィードバックをしたりした。また、荒天の際には、リモート会議を活用しリモート授業を実施した。

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 <ul style="list-style-type: none"> 今年度は島留学生の加入等で児童生徒数が倍増し、道徳や児童生徒会活動を通して多様な感じ方や考え方に触れる機会を作ることができたことで、思いやりのある他者への関りができ、島への愛着をより高めさせることができた。 積極的にICTを利活用することで、児童生徒が調査活動を充実させ、発表力のスキルアップを図り、他者から評価を受けることで学習に対するモチベーションを高めることができた。また、特別支援学級においても、言語習得や学習への意欲を高めさせることができた。 時間外在校時間は減少傾向にあった。引き続き、教職員が健康で日々の教育活動に取り組めるよう、働き方改革の推進に取り組んでいきたい。 来年度も食育の推進と、家庭学習の進めさせ方について、学校全体で話し合っていく必要がある。
----------------	---